

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽南 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 85人 国語B 85人

② 算数A 85人 算数B 85人

#### 5 留意事項

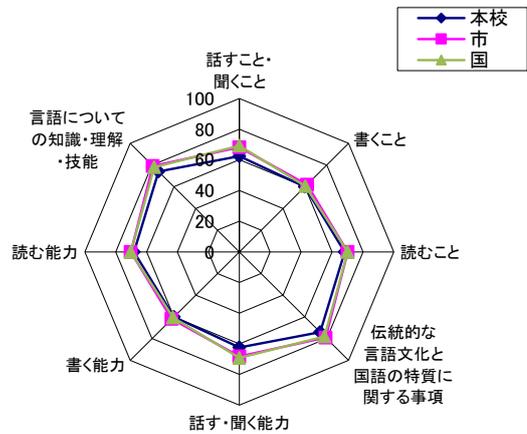
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

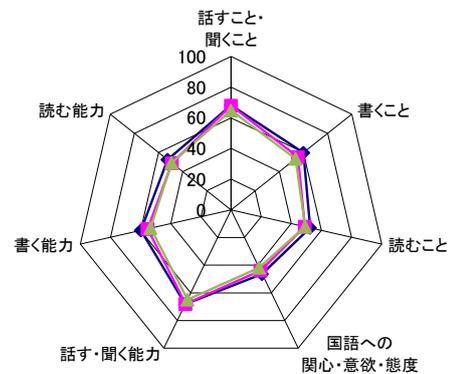
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	62.4	68.2	69.2
	書くこと	60.0	62.0	60.6
	読むこと	68.2	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.0	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	62.4	68.2	69.2
	書く能力	60.0	62.0	60.6
	読む能力	68.2	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	74.0	79.1	78.0



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	68.2	68.0	64.9
	書くこと	59.8	55.3	53.4
	読むこと	52.5	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	46.3	43.9	41.7
	話す・聞く能力	68.2	68.0	64.9
	書く能力	59.8	55.3	53.4
	読む能力	52.5	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

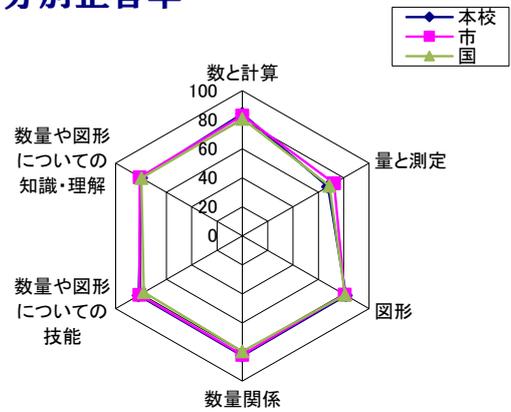
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○B(活用)では、正答率が68.2%であり、全国平均より3.3ポイント上回っている。 ●A(知識)では、正答率が62.4%であり、全国平均より6.8ポイント下回っている。	・ことばの時間との連携を図り、話し方、聞き方、質問の仕方、答え方のスキルを身に付けさせるようにする。 ・学級活動での話し合いの時には、相手に分かりやすい話し方を意識して話をするよう支援していく。
書くこと	○B(活用)では、正答率が59.8%であり、全国平均より6.4ポイント上回っている。 ●A(知識)では、正答率が60.0%であり、全国平均より0.6ポイント下回っている。 ○手紙の構成を理解し、後付けを書く問題の正答率は、全国平均を3.2%上回っている。	・作文を書く際に、書き方を具体的に提示して書かせることで、書き方を学ばせるとともに、書くことへの抵抗感を減らしていく。 ・資料の読み取りや、目的に応じた説明、結果からの考察など、他教科とも関連させ、内容を整理しながら書くことを意識させる。
読むこと	○B(活用)では、正答率が52.5%であり、全国平均より3.3ポイント上回っている。 ●A(知識)では、正答率が68.2%であり、全国平均より0.2ポイント下回っている。	・物語文では、主人公や登場人物について、どの表現から人物像や気持ちが分かるのか、場面を切って読み取らせていく。 ・説明文では、接続語を確認しながら、段落のつながりを意識させ、要旨をまとめていくようにする。 ・読書活動を一層推進するとともに、読書を楽しめる環境の整備に努める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●A(知識)では、正答率が74.0%であり、全国平均より4.0ポイント下回っている。 ●漢字の読む問題の正答率は全国平均とほぼ同じであったが、漢字を書く問題の正答率は、3問とも全国平均を下回っている。	・家庭学習や朝の学習で、繰り返し漢字練習を行い、定着を図っていく。 ・漢字にはいろいろな読み方があるので、練習の仕方を工夫させる。 ・既習の漢字を日常で使えるように、いろいろな場面で漢字を使うよう指導していく。

# 宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

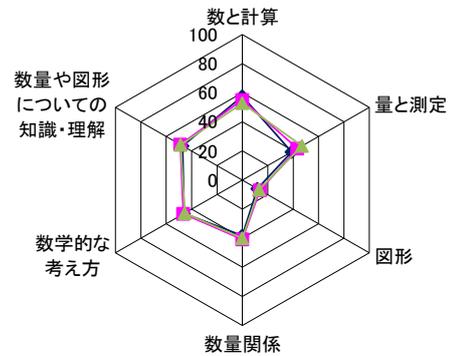
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	84.1	82.9	80.6
	量と測定	67.6	72.5	68.8
	図形	81.8	80.8	81.1
	数量関係	82.6	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	81.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	79.8	80.9	79.7



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	57.6	55.1	52.8
	量と測定	38.8	43.4	47.0
	図形	11.8	13.8	13.2
	数量関係	38.2	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	45.8	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	47.1	48.8	48.6



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○A(知識)では、正答率が84.1%であり、全国平均より3.5ポイント上回っている。B(活用)では、正答率が57.6%であり、全国平均より4.8ポイント上回っている。</p> <p>●1より小さい数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表す問題と、少数と整数の加法の計算をする問題の正答率は、全国平均を下回っている。</p>	<p>・今後も、パワーアップタイムを利用して、四則計算を繰り返し練習させ、正確に答えが出せるようにしていく。</p> <p>・乗法や除法の式の意味がまだ十分に理解できていない児童がいるので、式の意味を考えさせながら、立式させるようにする。</p>
量と測定	<p>●A(知識)では、正答率が67.6%であり、全国平均より1.2ポイント下回っている。B(活用)では、正答率が38.8%であり、全国平均より8.2ポイント下回っている。</p> <p>○重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ問題の正答率は76.5%と、全国平均を5.8ポイント上回っている。</p>	<p>・解決に必要な情報は何かを考えさせ、筋道を立てて自分の考えをまとめるよう指導していく。</p> <p>・単位量当たりの大きさ、図形の底辺と高さの関係なども繰り返し復習させる。</p>
図形	<p>○A(知識)では、正答率が81.8%であり、全国平均より0.7ポイント上回っている。</p> <p>●B(活用)では、正答率が11.8%であり、全国平均より1.4ポイント下回っている。</p>	<p>・実際に図形を見ながら考えさせ、だんだんと頭の中でイメージできるようにしていく。</p> <p>・図形の定義や性質を十分に理解させるとともに、三角定規、分度器、コンパスなどの道具の扱いにも慣れるようにする。</p>
数量関係	<p>○A(知識)では、正答率が82.6%であり、全国平均より3.0ポイント上回っている。</p> <p>●B(活用)では、正答率が38.2%であり、全国平均より1.8ポイント下回っている。</p> <p>○示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ問題と、割合を比較するという問題に適したグラフを選ぶ問題の正答率は、全国平均を上回っている。</p> <p>●仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題の正答率は16.5%と、全国平均を9.6ポイント下回っている。</p>	<p>・割合の学習では、基準量、比較量、割合、実際の数などの関係を図を描いて整理していけるよう、いろいろな問題に取り組ませる。</p> <p>・授業の中で、日常生活において実際に使われる場面を想定した指導も行い、応用力を高められるようにしていきたい。</p>

## 宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」で「当てはまる」と回答した割合が81.2%であり、全国の73.4%を7.8ポイント上回っている。また「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の「当てはまる」の回答は64.7%あり、全国より4.6ポイント上回っている。このことから、本校6年児童は、自己肯定感が比較的高く、自分も他人も大切にしながら生活していると言える。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」で「そう思う」と回答した割合が62.4%であり、全国の55.4%を7ポイント上回っている。また、「学校で、友達と会うのは楽しいと思いますか」で「そう思う」と回答した割合が90.6%と高く、全国を7.1ポイント上回っている。さらに「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」の肯定的回答が89.4%と高い。このことから、本校の6年児童は、友達と協力しながら楽しく学校生活を送っていると考えられる。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」で否定的回答をした割合が45.9%で、全国の割合を10.4ポイント上回っている。また、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」で「そう思う」と回答した割合が44.7%で、全国の32.9%を11.8ポイント上回っている。このことから、家庭とも連携をして、家庭学習の習慣化や言語活動の徹底に取り組んでいきたい。

●学校のきまりについて、「きまりを守っている」と肯定的に回答した児童の割合は84.7%であり、全国の割合92.6%より9.9ポイント下回っている。規範意識の指導や児童への声掛けを工夫していきたい。

## 宇都宮市立陽南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着を図る	学年の実態や単元の特性に応じて、習熟度別コースや少人数指導などTTの活用を工夫し、指導している。	算数の基礎問題では、量と測定で正答率が67.6%と全国より1.2ポイント低いが、他の3つの領域は80%以上で、全国の平均正答率を上回った。
授業におけるまとめ・振り返りの充実	「授業でのめあての提示」を各クラス徹底し、見通しを持って学習に取り組み、まとめ・振り返りの時間を十分に設けている。	「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたか」の質問に87.1%と肯定的に回答し、全国の割合とほぼ同じであった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年に応じた「家庭学習のしおり」や「家庭学習カード」を活用し、宿題の内容や量、自主学習への取り組み方について、学年で歩調を合わせて指導し、家庭学習の習慣化を図る。	「家で学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は96.5%であり、全国の割合とほぼ同じであった。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、漢字、小数などの計算や平均を求める量と測定など、基本的な知識や技能に関する問題の中で、全国平均よりも5～10ポイント以上低いものがいくつかあった。	復習により定着を図る学習の充実	単元の導入に全学年までの内容を復習する機会を設定したり、既習した後にパワーアップタイムなどを利用して復習を何度も行ったりして、基礎的事項を身に付けられるようにする。